

5. 解説「関連データ・用語・仕組み」:梵鐘(ぼんしょう)とは

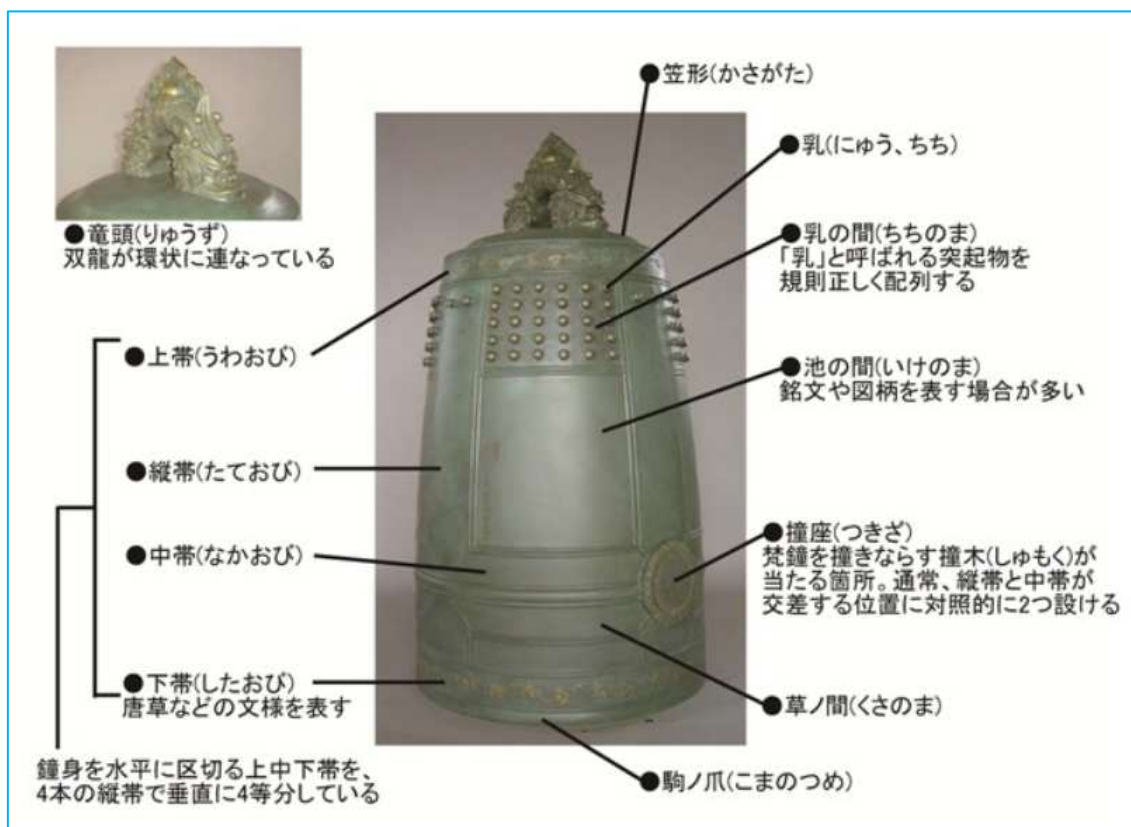
梵鐘とは、世界大百科事典 第2版によると、「仏寺で時を知らせ、衆を集めるために用いる鐘(かね)。「梵」はサンスクリットのブラフマン brahman の音訳で、「神聖」「清浄」を意味する。ほとんどが銅とスズの合金(青銅)の鋳造品で、鐘楼や鐘楼門を寺域に建てて吊(つ)るし、撞木(しゅもく)で撞(つ)き鳴らす。」と記されている。

出典:コトバンク 梵鐘 <https://bit.ly/3hxJOMh>

青銅器と云えば、先史時代以来、銅鏡や銅鐸もあるなかで、梵鐘のみが古代から現代まで作り続けられているが、その3種の質量を分析した論文によると、「大型化の割合より大きい割合で材料を増やしているようである。このことは、梵鐘においては音の質が非常に重要であることと関係しているのではないかと推察される。」とのこと。

出典:論文 出土鏡・銅鐸および梵鐘の大きさと質量の関係について <https://bit.ly/2Etk8c8>

梵鐘(和鐘)の各名称



出典:梵鐘ひとこらむ <http://www.oigo.jp/museum/column/>

なお、小型のもの(一説には直径1尺7寸以下)は半鐘(喚鐘、殿鐘)といい、高い音で、用途も仏事以外に火事などの警報目的でも使われる。(ウィキペディア <https://bit.ly/31vu25A>)

そういえば、田舎にいた頃、近所に半鐘台があり、消防団員が火事を知らせるときに登って半鐘を叩いていたのを思い出す。半鐘の音も今はしないが、これもふるさとの一つの音の記憶である。